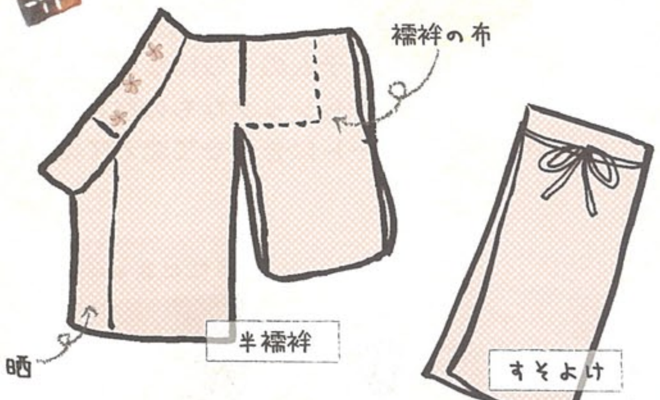
きもの語り 長襦袢篇

〇八・初夏号
発行：松岡屋

長襦袢についてご存知ですか？

襦袢ははじめ、丈が短い半襦袢が正式だったそう…。
そんな中、花魁が部屋着として考案された長襦袢が、華やかな時代と共に広まりました。
そして奢侈禁止令（贅沢禁止！）が相次いだため隠れた所で贅を尽くしたおしゃれな長襦袢が主流に…。
ピンクの襦袢が多いように思いますが、訪問着～小紋まで多用できる淡く優しい印象の襦袢や、楽しいポップな印象の襦袢など様々です。

二部式襦袢



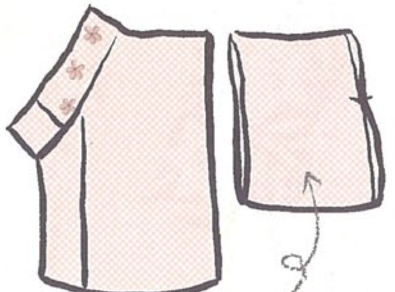
胴の素材は一般的に晒です。
夏の襦袢の代わりに着用しますので、全て裏なし（単衣）です。

半襦袢とは暑い時に長襦袢の代わりに着る襦袢です。
胴が晒で袖が襦袢の布で仕立てるのでとても涼しく快適♪しかし松岡屋の半襦袢はそれだけじゃないのです！
もし袖の中の方まで見えてしまったら明らかに半襦袢だと解ってしまいます。そこで肌襦袢と長襦袢を着ているように見せるため、晒の肌襦袢の上に袖のみ縫付けます。

長襦袢

袖無双胴単衣
全て襦袢の布で仕立てます。

うそつき襦袢



袖が取り替えられます

今では色・柄・デザインもこんなにおしゃれ！

襦袢は白・ピンクだけ…と思っていませんか？襦袢と言えど、こんなにカラフルなんです。
他にも、松岡屋オリジナルの襦袢もございます。お若い方～ご年配の方まで、どんな色の着物にも似合う色なのでとても多用できます。
ぜひ、ご自分だけのおしゃれを楽しんでみてくださいね♪

松岡屋オリジナル

身頃・袖の外側

袖の内側

おすすめ 袖無双胴単衣の利点

寒い時に着るのが全て裏付の袷。暖かい時に着るのが裏なしの単衣という風に着物と同様に襦袢も衣替えします。
しかし最近では、冬でも袷にすると暑い…夏でも単衣だと寒い…そんな時があるので、胴部分を単衣で袖のみ袷にした『袖無双胴単衣』という仕立て方を松岡屋ではオススメしています。胴を単衣で仕立てるので涼しく、袖を袷に仕立てるので一番目立つ振口から襦袢の表側が見えておしゃれです。
しかし、絽織りや紗織りなど透け感のある夏物の着物には同様に透け感のある単衣仕立ての襦袢を合わせるのがマナーですね。

訪問できなくて、すみません!!

呉服屋は訪問営業が多いようですが、突然家に来られても困られるのでは…？ そこで松岡屋は、ご用の際のフリーダイヤルを準備しております。必要とあれば、訪問させていただきます。お気軽にどうぞ。

FreeDial 0120-63-0618

松岡屋